

## 1. 貧困

## (1) 「絶対的貧困」に関する概念

## ・ ラウントリーの一次貧困、二次貧困

「一次貧困」は「単なる肉体上の健康だけを保持するために必要な最小限度の支出」で、その支出は、栄養科学に基づいたカロリー、タンパク質などを摂取できる献立を価格計算して食費を算出し、これに家賃と家計雑費(衣服、燈火燃料など)を加えたもの。「二次貧困」は、「その収入が、もしその一部が他の支出に振り向けられぬ限り、単なる肉体的能率を保持するに足る家庭」を指すもので、つまり所得は第一次貧困線以上であるが「飲酒、賭博、家計上の無知または不注意、その他計画性のない支出」によって、実質的に貧困線以下の生活水準になっているような状態を指す。

## ・ マーケットバスケット方式における最低生活費(理論生計費)

ラウントリーの一次貧困を意味する。すなわち、栄養所要量を満たしうる飲食物費を理論的に算出し、これに他の必要経費を一つ一つ積み上げて算出したもの。

## ・ エンゲル方式における最低生活費

マーケットバスケット方式で用いられた栄養所要量を満たしうる飲食物費の理論的算出を前提とし、別に最低生活を営むために必要な飲食物費や衣類、家具什器、入浴料といった個々の品目を一つ一つ積み上げて算出する最低生活費。

## ・ ミレニアム開発目標

国連ミレニアム宣言と1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合してまとめられた目標。2015年までに1日1ドル未満で生活する人口の割合を1990年の水準の半数に減少させることなど、2015年までに達成すべき8つの目標が掲げられている。

## ・ 世界銀行の貧困ライン

1990年の世界開発報告によると、年間所得が370ドル以下であることとされていた。現在では、2008年に引き上げられ、1日の所得が1.25ドル以下であることが貧困ラインとされている。

## 1. 貧困(続き)

### (2) 「相対的貧困」に関する概念

#### ・ タウンゼントの相対的剥奪

ある社会の標準的な生活様式からの剥奪の度合いを、食事内容、耐久消費財の保有、社会関係や活動などの剥奪指標から計測し、この度合いが著しく高まる所得水準を貧困線としたもの。

#### ・ OECD等の相対的貧困率

世帯所得を、等価所得に調整した上で、その中位数の一定割合(50%、60%、40%など)を貧困線として、貧困を計測したもの。

## 2. その他

### (1) ソーシャル・エクスクルージョン(社会的排除)

現代社会で普通に行われている社会関係から、特定の人々が排除されている状態に焦点をあてた概念である。たとえば職業やさまざまな社会活動、住宅、教育、健康、社会サービスへのアクセスの権利からの排除が、複合的に生じている状態を意味する。

#### (参考) EUの「社会的排除及び貧困」に関する指標(2008)

相対的貧困率、不平等指数、長期失業、世帯の地域格差、雇用率の地域格差、健康寿命等14項目から構成される。

※ EUは、公開調整手法を用いるにあたって、目的に向かって進歩をモニターする普遍的な指標の使用は不可欠である、としている。

### (2) センのアプローチ

単に財の配分の平等を達成するのみでは十分でなく、財を機能に変換する能力に着目し、そうした基本的潜在能力の平等を念頭におくもの。